

知恵の樹

No. 250 2020.12.22

町田の図書館活動をすすめる会

<https://machida-library.jimdo.com>

代表：手嶋 孝典

tejitaka@f8.dion.ne.jp

鶴川図書館の廃止を認めない！！

公立図書館として存続を！ — 利用者の声 —

今、やるべきことは、

庄司 洋子(つるかかわ図書こ応援隊)

ところが何かを求めるとき、図書館に行こうかなと思う。大人も子どもも、ふらっと図書館へ歩み出す。歩いて行けるところに図書館があることの幸せを「図書館がなくなる」現実に迫られて切実に思いなおした。存続を求める請願を否決した市議会は、一体どんな未来をめざしているのか？

今年、地域の子どもたちが本への興味を広げるお手伝いをしようと、図書館ボランティアが集まり、“つるかかわ図書こ応援隊”を立ち上げた。その始まりは、昨年3月に地域の小学生に呼びかけて、「子どもとおとなでおはなし会」をしたことである。近年、自分からおはなし会に出向いてくる子どもたちが少なくなっており、企画、出演から子どもたちと一緒にやってみようと考えた。当日、会が活気づいたことはもちろん、観る子どもたちの集中が高まったこと、その後の図書館の定例おはなし会に小学生がたくさん来たことはうれしく、今年度は、もっと広く子どもたちに自ら演じる楽しさを感じてもらうために、近隣の小学校4年生の「読書の時間」1コマに参加させていただき、「読み聞かせワークショップ」を行なった。演じる子も、観る子も、物語の世界を楽しめた授業になった。おはなし会晴れの舞台は、コロナのために実施することは叶わなかったが、子どもたち、学校、図書館、ボランティアが手を繋ぎ、進んでいけることを信じている。

しかしながら、その核となる地域の図書館がなくなってしまうたら、どうしていけばいいのか？ 経済優先の

市政は、人のこころを貧しくする。今、やるべきことは、一つは、地域の図書館を守ることである。 (会員)

図書館と私

川又 裕子(柿の木文庫)

車の持てない貧乏学者一家の住いは医院と図書館が近い処と決めて家を探しました。何度か引越しをしましたが、いずれも鶴川団地図書館の徒歩圏です。子ども達の幼い時は絵本や児童書。文庫に関わる様になると紙芝居なども借りました。少し時間が持てる様になったらお気に入りの作家の小説など。少しスマホやタブレットを扱える様になるとブログで識った本やそれに関わる資料等を借りました。かえって以前より読書量が増えました。今 深く思うは何という世の中に成って仕舞ったかという事です。政治的に右も左もなく只正しく真っすぐに生きたいだけのか弱い市民を誰が守ってくれるのでしょうか。なぜこんな事に成って仕舞ったのでしょうか。私は図書館でひたすら探してます。公は万卷の書を市民に開示する義務があると思います。もし私達の幸せの保障を約束したいなら。

私たちの町に図書館を残して

森 弘子(鶴川6丁目在住)

私は結婚と同時に鶴川6丁目の団地に引っ越してきて、40年近く住み続けています。鶴川図書館は、子どもが小さい時から、自分が高齢者になる現在まで家族の皆が親しんできました。買い物ついでに日常的に立ち寄れる場ですし、他の利用者も館内のベンチに座って雑誌を見たり、新聞を読んだり。時にはかわいい幼児の利用者が、書棚から本を選んで、子ども用閲覧

スペースで絵本を開いたりして、館内にはいつも穏やかな空気が流れています。大きな施設ではないけれど地元の皆に愛されている図書館です。もちろん書棚間の通路がもう少し広かったら利用者同士ぶつからないで通れるとか、もう少し新しい本を入れてほしいとか、子どもの閲覧スペースのシートの破れを直してとか要望はいろいろあるのですが、まずは廃止するのはやめてください。安心して住み続けられる町の条件として、図書館など文化的な諸施設の存在も大事ではないで

しょうか。

2019年に「鶴川図書館大好きの会」が立ち上げられ、周辺の自治会、町内会、商店会などが共同で署名に取り組み、2020年はコロナ禍の中で「鶴川図書館応援まつり」(2回目)や絵本づくり講習会や、鶴川市民センターでの講演会(前川喜平さん「生涯学習社会と図書館」)を開催するなど、会の催しにはたくさんの人が参加するようになってきました。私も地元の多くの方とのふれあいを楽しみながら、運動に参加しています。

第18期図書館協議会 第8回定例会報告 (報告者 清水 陽子)

2020年11月19日(水)午後2:00~3:00 中央図書館ホール 出席6名 傍聴1名

【協議事項】

1. 移動図書館について

さるびあ図書館係長より説明

第8回からは「BMの運行や予約受渡し場所の見直し」としてBMの巡回場所や予約受渡し場所、図書館遠隔地に向けた新たなサービスなど中長期的な姿や具体的な取り組みについて意見を頂きたい。今回は現状確認をする。

(1) 図書館サービスの拠点の配置状況について

- 1) 建物図書館: 中央図書館 地域館7館
- 2) 予約受け渡し場所: 小山市民センターなど4カ所
- 3) 移動図書館巡回場所: 2020年度 60ヶ所
- 4) 相互利用図書館: 隣接するすべての自治体 10市と協定締結

(2) 図書館に関する市民調査の状況: 2017年実施の生涯学習に関する市民意識調査報告書より

図書館を知っている人は90%以上、1年以内に使った人50%、図書館に望むことダントツ1位は図書の実、図書館の見直しを考える上で最も重要と考えることは、このままでよい23%、これまで以上20%、身近な場所で予約した本を受け取ることができるが13%など。

(3) 他自治体における図書館遠隔地サービスの現状

- 1) 24時間図書館開館(長野県川上村)
- 2) 学校図書館の開放(川崎市、所沢市)
- 3) 移動図書館サービス(明石市、佐倉市)
- 4) コンビニ等での予約資料受取(所沢市、寝屋川市)、まちごと図書館(高槻市)
- 5) 予約資料受取ロッカー(稲城市)
- 6) 高齢者・来館困難者向け無料宅配(町田市)、宝塚

市は育児・介護の来館困難者向け

- 7) 宅配便など有料配送(海老名市、横浜市一部)
- 8) 電子書籍サービス(八王子市、大和市、狛江市)
- (4) サービス拠点の配置を考える上での視点
 - 1) 「町田市立図書館のめざす姿」の実現につながるか
 - 2) 町田市図書館の取組で実現可能か
 - 3) 達成時期に関しての視点 中期的は2030年、長期的は2040年代
 - (5) 今後の論議の進め方について(予定)

質問: 教育委員会の権限が関係するため図書館の決定だけでは実現できないということがあり、そのために図書館の取組として実現可能かどうかの意見を欲しいとあるが、意味がわからない。⇒理想的なことと取り組めることと両面からという意味。

質問: 相互利用図書館は予約ができず、図書館の機能を利用できるとは言えない。今後予約のできるような取組はされるのか。⇒現状ではしていない。今後拠点を考える上で検討する課題。

2. 図書館からの報告事項について

(1) 再開館後の状況: 貸出点数、利用者数共に95%くらいまで回復している。

(2) 町田市教育委員会第8回定例会(11/6)

- 1) 横浜市立図書館との相互利用協定の締結について
- 2) 「これからの図書館スタート事業」中央図書館30周年記念イベントについて
- (3) 「効率的・効果的な図書館サービスのアクションプラン」に基づく取組状況など

1) 中央図書館30周年企画展示

資料に追加 ひとつ POP コンテストの募集期間延長

2) 移動図書館の出張運行 11/4 芹が谷公園実証実験「Future Park Lab」への参加来館者約 200 名

3) 鶴川図書館への指定管理者制度導入の準備状況について

鶴川駅前図書館係長より説明。

鶴川駅前図書館への指定管理者制度導入の準備状況について報告。資料②-4 の指定管理者に求める鶴川駅前図書館管理運営の考え方をイメージ図にした。考え方の背景は町田市立図書館の 5 つの運営理念。現状の分析として、《鶴川駅前図書館における特徴的な取組》を 3 つにまとめた。

① 鶴川地域や学校、大学と連携した取組。地区協議会、和光大学、私立鶴川図書館、FC 町田ゼルビア、里山などと連携した取組

② 複合施設内の図書館ならではの取組（学びの広場、ショートムービーコンテストとの連携など）

③ 鶴川駅前という立地を活かした取組（開館時間の延長、予約図書受取サービス、蔵書構成）

これらを踏まえて、《サービスの基本的な方向性》として

① 地域の構成員として地域の連携に力を入れる。

② 立地特性を生かした図書館サービスを展開する。

③ 町田市立図書館を構成する 1 つの館でありつつ、民間事業者ならではの図書館サービスを積極的に実施する。

この方向性が《町田市立図書館の目指す姿》であることを事業者にしし管理運営してもらう。

質問: 地区協議会の考えが利用者の考えとイコールではないので、そこで図書館について何か決めていくということは止めて欲しい。

委員: ポプリホールを作るときに 5 年ほどかかわったが、施設の特徴ということで、歴史や多摩丘陵の自然などがあげられ浪江先生の本なども置かれている。そのようなことも特徴として入れて欲しい。

委員: 指定管理をどのように考えているのか。指定管理になってひなた村の運営協議会が機能しなくなった。何らかの形で利用者が運営に参加しないと理念は実現できない。民間が利を生み出すために何ができるのか気になる。大企業に丸投げするのではなく、ワーカーズコープのような地域の方が NPO や協働組織を作って運営していくのが望ましいのではないかと。

事務局: ワーカーズコープですが、そういう団体が応募

してくれば、町田市としても協働はすすめているので、選定されればよいのではないかと。また、どうやって利益を上げるかということは、業者が自主事業ということで提案してくることになるが、のめるかどうかということもあるが、評価していくことだと思う。

委員: 図書館もとても専門性の高い施設だと思うので、専門性についてはきちっと位置づける必要がある。理念や専門性と自主事業などはしっかりと考えていかなければならない。

質問: 前に指定管理に出すときに図書館だけにするか、複合施設全体とするか考えているということだったが、どうなったか。

事務局: まだ決まっていない。

委員: ポプリホールができた時に指定管理者や利用者で運営協議会を運営することになっていたが、未だ開かれていない。実行していただきたい。

3. 図書館評価について

事務局: まだ取りまとめ案が出そろっていないが、12月の第 9 回に最終確認をして、第 10 回に提出願いたい。

委員: 取りまとめると言ってもこの評価方法では取りまとめるのも難しい。併記という形を取らざるを得ないのではないかと。事務局はどのように考えているか。

事務局: 一本の意見にまとめるのは難しいと思うので、いくつかの角度からのコメントを併記していただいてかまわない。

《終了後、午後 4:30 まで図書館評価のための意見交換を実施した》

★次回第 18 期図書館協議会第 9 回定例会

2020 年 12 月 23 日(木)午後 2:00～

町田市立中央図書館ホール(6F)にて

傍聴しましょう!

ドキュメンタリー映画

「疎開した 40 万冊の図書」の上映会

日時: 2 月 27 日(土)午後 2 時～

会場: 鶴川市民センター ホール 定員: 150 名

主催: 町田の図書館活動をすすめる会

資料代徴収予定 ※詳細は、別途チラシ及び「すすめる会」のホームページに掲載予定です。

☆図書館主催の上映会は、2 月 19 日(金)2 時～、中央図書館ホールにて開催予定です。

成瀬にかつて図書館があった！

駒田 和幸

成瀬というと、どんなイメージをお持ちだろうか。おそらく住宅地といった回答が多いのではと思う。成瀬地域には、町田市の人のおよそ 1 割もの人びとが暮らしているの、現状認識としてはその通りだろう。

ただ、歴史を振り返ると、そのイメージとは大きく異なる姿が浮かんでくる。そこで、少しばかり成瀬の来し方をたどってみよう。

1871 年の廃藩置県後、多摩地域は神奈川県に属することになったが、その後、多摩が3つの郡にわかれ、成瀬村は神奈川県南多摩郡の1つの村となった。その範囲は現在の町名でいうと、成瀬・南成瀬・成瀬が丘・西成瀬・成瀬台・東玉川学園とかなり広がった。ついで 1889 年、大日本帝国憲法が公布された年に施行された市制町村制によって、成瀬村は南多摩郡南村に吸収され、村としては消滅した。1893 年には、三多摩が東京府に編入され、南村は神奈川県ではなくなった。そして第二次世界大戦後の 1954 年 4 月に南村は町田町と合併し、さらにその 4 年後には町田町・鶴川村・忠生村・堺村が合併し、町田市が発足して今日にいたっている。

以上が行政区画上の変遷であるが、成瀬の景観に巨大な変貌をもたらしたのは、1960 年代の高度経済成長期の急激な開発である。宅地化が止めどなく進行し、その中で 1979 年 4 月には横浜線の成瀬駅が開業した。こうした開発により、自然とともに暮らす人びとの営みは消えていった。かつての成瀬は、緑豊かな里山で、恩田川沿いに豊かな田がひろがり、周辺の谷戸には炭を焼く土窯がたくさんあった。炭にするくぬぎやならなどの木々が豊かだったのだ。また、谷戸の小川ではうなぎが捕れたという。

そんな在りし日の成瀬に地元の青年たちによって成瀬図書館が開かれたのだが、今では知る人はほとんどいない。

1892 年 3 月、まだ神奈川県時代に「成瀬青年会」が発足した。「会則」によると、満 17 歳から 30 歳までの男子を「正会員」、30 歳から 35 歳までを「賛助会員」とし

たとある。また、会の目的には、「農村風紀ノ改善」や「農事ノ改善」「勤儉貯蓄ヲ励行シ不時ノ災害ニ備フル」といった地域の秩序維持や産業振興・生活安定といったテーマが掲げられるとともに、「専ラ學術ノ補習ニ勉メ相互ノ智識ノ交換ヲ謀ルコト」と学習活動も大きく掲げられていた。

ところで青年ということばは、1880 年代から従来の「若者」にかわって社会進展・改革の原動力といった肯定的な意味を帯びて使われ出したもので、特に若き徳富蘇峰(1862~1957)が 1887 年に刊行した『新日本之青年』の影響は大きかった。こうした背景から地方の若者の間に、従来の「若者組」に飽き足らず、青年会を作る動きがひろまったのだ。成瀬の隣の高ヶ坂でも結成されている。ただ、青年といった場合、当時は漠然と若い者といった意味合いであったが、成瀬青年会の場合、年齢が指定されている点が注目される。

さて、会の目的にあった学術に励むため、農閑期には「補習夜学研究会及講話会」を開催するとし、さらに図書館を開き、「公衆閲覧ノ便」をはかるとした。実際、1892 年に図書館は開館した。多摩地域で最初の公立図書館が五日市の戸倉村に開館するより 11 年前のことであった(ちなみに町田町立町田図書館開館は 1956 年)。

どんな図書館だったのだろうか。成瀬郷土史研究会が新井勝紘の協力を得てまとめた労作『成瀬一村の歴史とくらし』(第一法規出版、1985 年)によると、場所は、近世末期に寺子屋が開かれるなど「村の文化の中心」(井上恭一『地の星と共に』2013 年)であった東雲寺(曹洞宗)にあった。なお、東雲寺には青年会の事務所も置かれていた。

最初は青年会員が蔵書を持ち寄ったり、寄附を仰いだりして百冊余の蔵書が集まった。そして書架を自ら作ったり、閲覧者名簿を作ったりとかなり本格的な準備をしてスタートを切った。その後、徐々に蔵書も増え、利用者も増加していき、1911 年には、会員や有志から 110 円 15 銭もの寄付金を集め、新刊書の購入にあて

たという。ちなみに明治末の段階で本の値段がどれくらいであったかという、例えば 1911 年刊行の西田幾多郎著『善の研究』は 1 円、代表的な総合雑誌であった『中央公論』は 20 銭であった。

さらに 1911 年には、15 か条からなる「成瀬図書館規定」も定めている。その規定によると、館長などの役員体制や開閉時間・閲覧手続きなどを詳細に定めている。具体的には、開館時間は朝 8 時から夜の 10 時までとし、農業の仕事で夜遅くなる人への配慮をしている点が注目される。さらに本は原則として閲覧室で読むこととし、貸出を願う場合は 3 日を限度に許可された。なお、図書館を利用できたのは青年会員や成瀬区民、役員の「保証照会ヲ得タルモノ」などとされた。

この図書館がその後どうなったか、どんな蔵書があったのか、あるいは女性の利用はあったのか。知りたいことは山とあるが、残念ながら詳細はよくわからない。

町田における図書館の歴史といえば、浪江虔・八重子夫妻が 1939 年に鶴川村に開館(仮)した「南多摩農村図書館」が真っ先に思い浮かぶが、その開館より半世紀近く前に成瀬地域の青年によって図書館が設立・運営された歴史があったことは記憶しておきたい。なお、成瀬青年会とのつながりはわからないが、敗戦後

間もないころに成瀬の農事研究会が農村図書館から団体貸出を受けるということがあったという(多摩百年史研究会編著『多摩百年のあゆみ』けやき出版、1993 年)。

さて最後に話を現在に戻すと、成瀬地域は多くの人口をかかえながら、市の図書館は 1 館もない。比較的近いのが金森図書館と思われるが、徒歩でいくにはかなり距離がある。

筆者自身は、図書館は自宅から散歩していける程度の距離にあるのが望ましいと考えており、成瀬地域の現状は残念で仕方がない。その上、市は時代に逆行するかのよう図書館の再編や縮小を画策している。かつて成瀬図書館を設立・運営した青年たちは、この事態をどう見ているだろうか。

【付記】

成瀬青年会は 1912 年 10 月には「会報」の発行を始めている。しかし 1918 年に南村青年団に統一され、その成瀬支部となった。さらに第二次世界大戦が激しくなるなかで、青年たちは兵役にとられていき、青年団は解散状態になってしまった。その間、図書館がどうなったかはわからない。東雲寺に関係資料は残っていないが、模索しながら調査を進めていきたい。(会員)

情報公開請求再申請について (報告①) 手嶋 孝典

去る 8 月 11 日、1. 町田市立図書館のコロナ禍(COVID-19)に伴う全館休館に関して、2. 町田市立図書館ホームページの閉鎖及び再開に関して、3. 「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して、4. 町田市立鶴川駅前図書館への指定管理者制度導入に関して、情報公開請求した。しかし、公開された文書が行政の意思決定とは無関係な単なる手続き上の起案書であったり、公文書が不存在とされるなど、当方が意図した情報は、ほとんど明らかにならなかった。そこで今回は、以下の 4 項目を再度情報公開請求し、事実の解明を進めようと考えた次第である。

1. 町田市立図書館のコロナ禍(COVID-19)に伴う全館休館に関して 「3 月 2 日からの休館を決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切」を請求したところ、公開されたのは、「生涯学習部所管施設の休止等について」という起案書 1 件だけであった。これは

生涯学習部生涯学習総務課が指示した「生涯学習部所管施設の休止等について」に従って行った収受起案に過ぎない。「生涯学習部所管施設の休止等について」という起案書の根拠となる「全館休館に関して 3 月 2 日からの休館を決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切」を改めて請求した。

2. 町田市立図書館ホームページの閉鎖及び再開に関して ①「4 月 8 日からのホームページ閉鎖を決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切」、②「4 月 21 日からのホームページの再開を決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切」を請求したところ、起案書が①、②とも 2 件ずつ公開されたが、いずれも、ホームページの閉鎖や再開決定の理由には触れられていなかった。そこで①、②とも「決定に至る意思決定のプロセスが分かる会議録、起案書などの文書一切」を改めて請求した。

3.「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して①「今後の町田市立図書館のあり方見直し方針」を町田市立図書館協議会ではなく、町田市生涯学習審議会に諮問することと決定した経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切を請求したところ、生涯学習総務課からは、2件の文書が公開された。この2件は、決定、あるいは策定された「経緯が分かる会議録、起案書など」とは程遠い。図書館の運営のあり方等は、過去一貫して図書館協議会への諮問事項であり、生涯学習審議会への諮問が極めて異例なのである。そのことを意思決定した文書は存在するはずなので、「町田市立図書館協議会ではなく、町田市生涯学習審議会に諮問することを決定した経緯が分かる」会議録

及び起案書を改めて請求した。

3.「今後の町田市立図書館のあり方について」の諮問に関して② 2018年10月22日の生涯学習審議会に「資料4-①」として出された「(案)町田市立図書館のあり方見直しについて」が策定された経緯が分かる会議録、起案書などの文書一切を請求したところ、手続き上の文書(開催通知)が開示されたに過ぎなかった。「資料4-①」は、「生涯学習審議会事務局である生涯学習総務課が諮問内容を補強するために作成した資料で、図書館では作成していない」ということであれば、生涯学習総務課には存在するはずである。それが「策定された経緯が分かる」会議録及び起案書を改めて請求した(結果は次号で報告します)。(会代表)

鶴川図書館大好き！の会の活動報告(11月後半～12月)

鈴木 真佐世(鶴川図書館大好き！の会・事務局)

鶴川図書館大好き！の会は、2学期以降、コロナ感染拡大を防ぐ手立てを最大限とりながら、①鶴川図書館の“集約”に向けての市の計画、その計画が具体的に上げられている図書館のアクションプランのことを少しでも多くの鶴川地域の人たちに知ってもらい、一緒に鶴川図書館を応援し、存続活動をする仲間を増やす、②鶴川図書館存続のために行政や議会へ働きかける、③新型コロナウイルスの影響で、図書館等公的機関でのおはなし会が中止されている状況の中、鶴川地域の子供達に本やおはなしの世界の楽しさを届ける、この3つの目的を持って、活動してきました。以下に、前号掲載以降の活動を報告します。

第2回鶴川図書館応援まつり 11月23日(祝)午前10時～午後3時 鶴川団地太陽の広場

- ・オープニング:みどりの森保育園のママさんブラス演奏
- ・あつという間に紙面が変わってびっくり！「パタパタ絵本」作り
- ・松ぼっくりでクリスマスツリー作り(鶴川冒険あそび場の協力)
- ・おはなし会:図書館や文学館所蔵の大型絵本・大型紙芝居を上演(柿の木文庫の協力)
- ・図書館クイズ:鶴川図書館に入らないと答えが見つからない！クイズ
- ・古本市:文庫本や単行本の古本の他、新しい児童書もあって毎回大人気
- ・「図書館問題を考える」コーナー:図書館の守り方、育て方について一緒に考えよう
- ・ニュースポーツを楽しもう(ボッチャ、ダーツ、ラダーゲッター)、バルーンアート

秋晴れの一日、商店や図書館に囲まれた「太陽の広場」にお子さん連れの方、年配の方など、たくさんの方がいらしてくださいました。子どもたちは、パタパタ絵本作りや松ぼっくりのツリー作りに夢中になったり、図書館に行って図書館クイズの答えを探したり、ニュースポーツに興じ、午後からはおはなし会で図書館や文学館所蔵の大型絵本や大型紙芝居を楽しみました。大人の方々は、古本市を覗いたり、図書館問題を考えるコー

ナーで、鶴川図書館が団地にある重要性などを話したり、「署名したいけれど」と、テントに寄ってくださる方も。鶴川に住む人たちと鶴川図書館大好き！の会だけでなく、まつりに協力してくださったNPO町田レクリエーション連盟、鶴川冒険あそび場、柿の木文庫、みどりの森保育園ママさんブラスの皆さんとも良い交わりが持てました。このつながりが鶴川図書館存続のための活動を更に発展させる一つの軸になることと思います。



(パタパタ絵本)



みんなで楽しく！読み聞かせカフェ

日時:11月28日(土)2回公演 (1回目:午後2時~3時 2回目:午後3時半から4時半)

会場:鶴川市民センター2階 和室(1)

上記目的の3つ目の鶴川地域の子どものための活動として、子ども夢基金の助成活動の一環で開催することができました。定員40名の会場ですが、コロナ感染予防のために予約制で1回20名の2回公演にしました。柿の木文庫による、絵本、語り、紙芝居、わらべ歌とさんさん音楽隊の特別出演によるペープサート(チェロの生の演奏入り)などを小さい子どもさんから大人の方々にも楽しんでいただくことができました。私たちとしても、先が見えない図書館存続運動の日々の中で、心とむひとときとなりました。



第5回図書館カフェ in 鶴川

日時:12月12日(土) 午後2時~4時

会場:鶴川市民センター和室

参加者:10名

応援まつりを終えて、来年に向けて活動をどのように展開していくかを話し合う集まりとしました。最初に、応援まつりの報告をし、次に、12月議会では、多くの議員が公共施設のことを一般質問に取り上げていましたので、どのようなことを質問し、行政がどのように答弁したかなどを伝えましたが、残念ながら鶴川図書館の再編問題を取り上げた議員は一人だけで、その他の議員

は、鶴川図書館問題は済んだものとしているように感じられました。

今後どのように活動していくかについては、1)やはり鶴川地域住民の多くの方が鶴川図書館が集約されることを知らないのもっとどンドン知らせるべき。知らせる方法として①そのことを知らせるポスターを商店街や自治会の掲示板に知らせる。②鶴川図書館の問題を考える資料(A3版の裏表)がよくわかるようにまとまっているので、これを追加印刷して、もっと多くの人たちに配つたらいい。そして、安心相談室や悠々園の駅前カフェなどにも置いてもらうように働きかける。③色々な人に短いアンケート(鶴川図書館が集約されることについて、とか鶴川図書館への想いなど)を書いてもらい、それをまとめて印刷したものを②の資料と一緒に置いてもらう。

2)鶴川図書館に利用をもっと増やす。図書館利用の啓発運動をしたらどうか。

今日初めて参加してくださったTさんが、学習塾を営んでいらして、「子どもたちやその親にもっと図書館を利用しようと訴えたいと思っていた。前川さんの講演会に出席して、鶴川図書館が集約されることを知った。コロナが落ち着いたらもっと図書館を使おうと伝えたい」と発言され、「YouTube に海外で絵本を読み聞かせている動画がいっぱいアップされている。鶴川図書館の絵本を使って、同じような動画をつくって YouTube に掲載したら、鶴川図書館の問題をもっと多くの人に知っていただけていいのでは」と提案されました。1月以降、これらの提案を可能なものから実行して、鶴川図書館存続へ少しでも近づく一歩にしたいと願っています。

(会員)





例会 11/24 (火) 報告

- ・16:00～ 印刷・発送作業等:
清水・鈴木(真)・手嶋・丸岡・守谷
- ・18:05～20:10 中央図書館・中集会室
出席:石井・清水・鈴木(真)・鈴木(優)・
手嶋・中野・守谷

議題

1. 会報について

次号(N_o250):巻頭言(未定→図書館長に中央図書館 30 周年記念をテーマに依頼⇒辞退されたため、鶴川図書館への想いを数人の方に書いて頂く)、第 2 回鶴川図書館応援まつり報告他(鈴木真)、第 18 期図書館協議会第 8 回定例会報告(清水)、「こんな本見〜つけた!」第 24 回(未定)⇒なし、成瀬図書館の歴史に関するコラム的な記事(駒田)、情報公開再請求結果報告⇒再請求報告(手嶋)

2. 今年度の活動計画について

「町田市 5 ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」への対応

鶴川図書館大好き!の会、まちだ未来の会と連携して活動する。

映画会

ドキュメンタリー映画「疎開した 40 万冊の図書」の上映会

日時:2月27日(土)午後の予定(会場確保)⇒午後2時~4時 会場:鶴川市民センター ホール
定員:150名 申し込み:メールと電話(先着順)

図書館見学会

茨城県守谷市中央図書館の見学と守谷市の図書館を考える会との交流。→継続

3. 「町田市5ヵ年計画 17-21」、「町田市公共施設等総合管理計画」等について

鶴川図書館大好き!の会の取り組み

鶴川図書館の今後について

八王子市由木中央市民センター図書館見学
10/28(水)実施(「知恵の樹」N_o249 参照)

図書館企画・地域支援係長との意見交換など
11/13(金)実施(「知恵の樹」N_o249 参照)

「図書館大好き大作戦」のイベント企画
「ピッケのつくるえほん」を利用した絵本作りワークショップ 10/3(土)、10/24(土)、11/14(土)
実施(「知恵の樹」N_o248 参照)

第 2 回鶴川図書館応援まつり 11/23(月・祝)
実施(本号 6 頁で紹介)
みんなで楽しく!読み聞かせカフェ 11/28(土)
(本号 7 頁で紹介)

「すすめる会」の取り組み

6 月議会文教常任委員会の記録を分析し、情報公開請求したが未解明の部分が多いため、再度情報公開請求したい。特に「アクションプラン」の基になる「町田市立図書館のあり方見直し方針」の核心部分が、図書館協議会はもとより、生涯学習審議会にさえ諮問されず、行政内部だけで決定したという事実を追及したい。一部字句を修正⇒12月7日(月)情報公開再請求。

鶴川駅前図書館への指定管理導入スケジュール(2021年3月議会で条例改正、4月に事業者の公募、8~9月で候補者選定、2022年3月協定書締結、4月から実施)。どのように対応すべきか。

4. 第9回図書館まつり関連の展示について

展示期間 11月17日(火)~11月29日(日)2週間
5 階の平台ケースで、これまでの歩みに因んだ『知恵の樹』(2冊からなる冊子)の紹介、おすすめ本の紹介を行い、ケース手前に会の紹介・リーフレットを置いた。

5. DVD「疎開した 40 万冊の図書」の貸出しについて

中央図書館に貸し出すことを会の ML を使って確認し、図書館側に上映の検討を増山、手嶋から申し入れた。図書館からの回答待ち。⇒上映に向けた検討をしているとのこと。⇒2月19日(金)午後2時~に決定。

6. 図書館友の会全国連絡会の文部科学省・総務省への要望書(案)、要望書補足(案)について(割愛)

報告

1. 第 18 期図書館協議会第 8 回定例会

「知恵の樹」N_o250(本号)参照。

2. 団体及び個人からの報告

嘱託員労組:10/15に初めて執行委員会を開催。

石井:①前川さんの講演会の参加、手伝いを市職労図書館六分会に要請した。②2021年度予算編成が厳しい。

《編集後記》新型コロナの感染が拡大している。大阪では休館した図書館もあるようだ。多くの図書館が創意工夫により開館していることを忘れてはならない。(T²)